



日本のことばと文化

三修社 presents! 「ゼツタイ Foreign Love! ～外国語と海外文化に Fall in Love～」※

2019年8月23日放送回

ゲスト 来嶋洋美

(国際交流基金日本語国際センター専任講師)

2020年2月特大号 かわらばん vol.5

※外国語学習に興味のある
一般リスナーに向けてのラ
ジオ番組。

外国語として日本語を教える
ことや、ことば・文化・相互理
解についてなど、『まるごと』の
著者、来嶋洋美先生をゲストに
迎え、いつもとは違う切り口で
お送りしました。

来嶋洋美(国際交流基金日本
語国際センター専任講師)

『まるごと』入門から初中級ま
で、全7冊の開発・執筆を担当。
開発チームのリーダーとして教
材を作り、現在は、専任講師とし
て、世界中のノンネイティブの
日本語教師に「日本語の教え方」
を教えている。

丸山有美(番組パーソナリ
ティ)愛称「あみみん」。編集者、
フランス語翻訳者、ライター、イ
ラストレーター。雑誌『からん
す』前編集長。フランス関連イベ
ントの司会や企画のお手伝いな
ど、多方面で活躍。

■外国語として日本語を 教えるということ

あみみん…本日のゲスト
は、国際交流基金日本語国際
センター専任講師の来嶋洋
美(きよしまひろみ)先生です。
今日は、日本語教育につい
て、たっぷりとお話を伺っ
ていきます。

じつはわたし、フランスで
駐在員のお子さんや、両親が

日本人のお子さんに日本語
を教えていたことがあるん
ですよ。そうすると、「へえ
そんな経験があるなら日本
語教えてよ」なんてフランス
人から言われることがある
んですね。でも、「いや、
ちょっと待って」と。困っ
ちゃうんですよ、日本人だか
ら日本語が教えられるって
思われると…。

来嶋…(笑)そう思ってい
る人は多いかもしれません
ね。単語単位でなら教えられ
るわけだし。でも実際は、日
本語を学ぶ人たちがって本
当に多様で、国も文化も学習
スタイルも、学習目的も個々に
違いますから、「どんな日本
語をどうやって教えたなら、そ
の人のとって一番効果的な
のか」が考えられないと、教
えることはできませんよね。

日本語の先生たちはそう
いうことが仕事です。そのた
めに、日本語や外国語教育に
関する知識を学び、経験を重
ねながら教え方の技術を
養っているんですね。

日本語でコミュニケーション
ションができるようになり
たい、日本のことをもっと知
りたいって思っている人は
多いんですよ。でも一方でそ
の人は、暗記ばかりじゃ
楽しくない、楽しく勉強した
いって思っているんですね。

日本語の先生たちは、そう
いったニーズに応えるには

どんな教材や教え方がいい
のか、毎日考えていらっしや
るんじゃないでしょうか。ど
の教材ならニーズに合うの
か、教科書や教材を見極める
目も、教える人にとっては非
常に大切です。

■相互理解のための 日本語

あみみん…今、『まるごと』
がここにあるんですけど、カ
ラフルだしすごく楽しい
んですよ。ビジュアルが楽し
いですよね。教科書っぽくな
い…。

来嶋…はい、見た目も
ちょっとこれまでの教科書
とは違いますよね。フルカ
ラーでここまでやったのは
快挙だと思っています(笑)

もともと国際交流基金は、
海外の日本語教育を支援す
る仕事をしているんですね。
海外の場合は国内と違って、
生活するのに日本語を使う、
いわゆるサバイバルジャパ
ニーズというのはほとんど
必要ないわけです。

それでも日本語を学んで
みたい人たちが大勢いるの
はなぜなのか、海外でも日本
語を学ぶ意義はどこにある
のか、つまり、そんなに使う
機会はないのに日本語を学
んでみたいということの意
味という意義というが、そ
れがやはりあるはずだ、と

チームのメンバーで話し
合ったんです。そういうこと
を、教材開発するときに考え
ました。

今は、仕事や留学、観光な
どで海外にも日本人はたく
さんいるし、国際結婚などで
日本人の家族ができた人も
いる、もちろん日本にルーツ
を持つ人達もいます。何らか
の理由で日本に興味を持つ
ている人は世界中にたくさ
んいます。

インターネットでメッ
セージをやりとりするチャ
ンスはいくらでもあるし、そ
れが簡単にできるような
なっている。サバイバルジャ
パニーズは必要ないけど、日
本人や日本語を話す人たち
に接したり、知り合いになっ
たりする機会は確実にあっ
て、その機会は増えているん
ですよ。

そういう交流の場で知り
合いになる、友達になる、人
間関係を構築する、というこ
とがコミュニケーションの
原点だと思えます。そして、
それが「相互理解のための日
本語」という、この教材の開
発理念につながっています。

この理念は海外も国内も
関係なく、外国語教育をやっ
ている人全員が共有できる
理念なんじゃないかな。

あみみん…相互理解です
か…ちょっと難しいですね。

その理念は、具体的にはどう表されているんですか？

来嶋：「ことば」と「文化」を取り入れているというところですね。

あみみん：「ことば」と「文化」？

来嶋：人と人がお互いに理解するというのは、言い換えると、「相手について知る」というのと「自分について相手に知ってもらう」とこの両面がありますよね。知りたいし、知ってもらいたい。そのために「ミニユニケーション」をする。

『まるごと』では、自分のことを身近なレベルで知ってもらうために、家族や趣味、子供の頃のこと、家族とは何語で話すのか、家で使っている電気製品の不具合とか(笑)、そんな、おしゃべりのような会話がたくさんあります。

あみみん：そーゆーの、重要ですよ！

■ことばと文化

来嶋：それと、もうひとつは、相手の状況を見て「どうしたんですか？」と話しかけるような練習もたくさん取り入れています。職場の人が肩こりや腰痛なんかで、ちょっと体に不調がありそうなきに「どうしたんですか？」から始まって、効果的なストレッチを教えてあげたりとかね(笑)。あと、自分の国に出張に来た人にアテンドしてホテルまで連れていくとか。配慮というか…そーゆーですね、他人を思いやっつての行動を取り入れています。

その行動を支える日本語の表現を学ぶ。そのためには、他者を思いやるような言語活動をする場面を教室の中に作り出して練習することが大切です。これが「ことば」の面ですが、「文化」も知る必要がありますよね。

「ことば」と「文化」は相互理解の両輪。学習する価値があるのは、人間理解の入り口としての文化だと思っています。ある会話をしながら、この人はどうしてこういうことを話すのかな…って、相手について考えること、ありませんか？

あみみん：あります、あります！

来嶋：会話の内容とか、話し方、話の流れには、その人の生活や価値観、その人を支えている文化が反映されるものだから、相手のことを知れば、たとえ自分にはちょっと耳が痛い話だったり、難しい話だったりしても、「この人の話をちゃんと聞いてみよう」という態度につながるんじゃないかと、そーゆー考えているんですよ。

だから「ことば」と「文化」を両方やっていくんだと、チームみんな考えて、取り組みました。

あみみん：それでタイトルが『まるごと』なんですわね。面白いですが、ね、「ことば」と「文化」を一緒に学んでいくって。

「日本の文化」というと、お花見、サムライ、マンガ、アニメ、天ぷら、みたいな、いわゆる…ってやつをイメージする人が多いと思いますが、先生がおっしゃっているのって、そういう文化、じゃなわつうですね。

来嶋：ええ、そういう文化じゃなく(笑)。『まるごと』の場合はやっぱり「ありのままの日本とそこに暮らす人を知ってもらう」ってことが文化の側面だと思っています。そのため、今の日本の生活や価値観を表現するものを、写真で紹介しています。

例えばファーストフードなら、ハンバーガーだけじゃなくて回転寿司や立ち食いそばも紹介して、駅にある立ち食いそばの写真を見たら、「この人たち、どうして立っているのかな？」とか「どうして駅にあるのかな？」とか、素朴な疑問がわくだろうし、写真をきっかけに面白い考えや意見が出てくると思うんです。

ワーキングマザーや育メンがいたり、お弁当ひとつとっても、お母さんが作ったお弁当もあれば、駅で売っているものもある。トピックは限られていますけど、日本の生活や考え方も多様でいろんな人がいるんだというところを、まずは知ってほしいです。ステレオタイプの日本じゃなくて、ありのままの多様さを知ってもらいたいんですよ。

それから、授業をしていると同じ写真を見ても違う考え方をする人は必ずいるんです。クラスメイトとそれぞれ受け取り方や意見を話し合うことで、広い意味で自分と違うものや考え方を受け入れる態度を身につけてもらえたら嬉しいですね。

つまり、他者を思いやる言語活動と同時に、日本の生活文化を学ぶことが大切だと考えている、ということですよ。

あみみん：思想が、なんていうか…すっごく優しい(笑)。

で、本の後ろの方に Can-do チェック表があるんですけど、これでチェックするんですか？「星3つ！」みたいなの。

■学習は自分のもの そして一生続くもの

来嶋：そーゆー、Can-do チェック表は、自分で「どのくらいできたか」をチェックするんですよ。

『まるごと』では、外国語学習は生涯学習だと考えています。学校を卒業しても、人生のあらゆる機会を捉えて学習は続いていきますよね、それは外国語学習に限らずですけど。そう考えると、他の誰かに管理を任せるわけにはいかないじゃないですか(笑)。

自分の、一生続く学習のことなんだから、日本語学習も自分で管理していかないと。「学習は自分のもの」という考え方で自己評価をする。これは、自分の学習を振り返るということですよ。もうだいたい広く認識されてきたと思いますが、成長のためには振り返りがとても大切なんですよ。

この自己評価も含めて、『まるごと』は、そもそも開発のベースが「日本語教育スタンダード(以下「JSTANダード」という日本語教育の枠組みなんです。このスタンダードは、ヨーロッパの CEFR(Common European Framework of

Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)を参考に作られたもので、英語でも、フランス語でも、日本語でもこの外国語も同じレベル設定ができるというのが興味深い特徴です。例えばAさんの日本語と、Bさんのスペイン語のレベルを横並びに比べられる。最近では、日本の英語教育でもどんどん取り入れられています。

■Can-do Gr1J1

あみみん：そういえば、NHKの語学番組もCEFRが基準になってますよねーA1とかB1とか。

来嶋：そうですね、NHKもCEFR基準ですね。J-TESTやJ-TOEFLでは、学習目標を文法や文型といった言語知識の項目ではなくて、「日本語で何ができるか」という言語活動で表現していきます。これをCan-doと呼びます。

例えば、「トピック」でかける「初級1」の目標なら、「友だちと待ち合わせの時間と場所について話します」「待ち合わせに遅れるというメールを読みます」「遅れた理由を言っています」「遅れた理由を言っています」といったCan-doが並びます。とてもわかりやすい目標ですよ。

授業ではこの目標に沿って会話を聞いたり、話したりします。評価も「できたかどうか」だから、はっきりしていますよね(笑)。Can-doを使うと、学習目標と授業の内容と評価が整合しやすくなって、いい授業になっていくと思います。

目標Can-doは、入門で50、初級1で53ですから、だいたい1冊につき50くらいあります。できるようになったことが数えられるんですよ。

あみみん：目に見えるんですね。

来嶋：自分だけじゃなくて他の人にも共有できるんですよ、目に見える形だから。Can-doのリストがあれば、家族や会社の人にも、自分が何ができるのかがすくにわかってもらえます。それが学習者の達成感につながります。

今のところ、こういった日本語教材はとまらぬんですよ。「コミュニケーション」を強調して取り入れている教科書として、『まるごと』は徐々にその良さを認めてもらっているという、今はそんな段階です。

まあ個人的にはね、Can-doは本質的には、「コミュニケーションの行動」を促すものであって、「トピック」というのはそれを補助的に、補完的に支えているものだろう、と思っています。

あみみん：ことが行動を補助的に支える…ですか。

来嶋：ええ。日本でもどこでもいんですが、例えば駅で困っている感じの人がいたとしますよね。その方が外国人だったら、助けてあげたいけど言葉がわからないし…ごめんなさい！って、通り過ぎてしまふこともあるだろうなって。

「困っている人を助ける」という行動を起こしたいのに、その気持ちはあるのに、これは残念ですよ。

も、なにか話しかけることばを持つていたら行動は違っていたかもしれない。ことばを知っていることが行動を後押しすることって、あると思います。

■「わたし」が

広がっていく感覚

来嶋：今、世界では、たくさんの方が日本語を外国語として学んでいます。日本語母語話者も、もっと外国語と外国の文化を学んでいけたらいいなと思います。

日本には、英語は普段使わないから苦手だ、という人が多いですが、もうそろそろ、それも卒業したほうがいいですよ。やっぱり英語がわかると、活動範囲や情報収集の範囲が劇的に広がります。それは、フランス語でも、スペイン語でも、中国語でも同じことだと思います。

東京2020オリンピック・パラリンピックもいいチャンスですよ。ことばは、必ずしも自分の利益のためだけじゃなく、誰かのためにも使えるものです。それが結局は、自分にとっても喜ばしいことなんだろうなって思っています。

外国語を学んで、言語行動や自己表現のレパートリーが広がったら、自分自身と人生を豊かにしていくことができると思います。

あみみん：それ、すごく納得します。外国語を学ぶと、表現手段のレパートリーが増えてますよね。日本語だったからこそいうことは絶対にし

ないな。ってこういう反応が、フランス語を話すときは自然にできちゃう、みたいな。「わたし」が広がっていくような感覚があります。

■世界の平和を目指して

あみみん：最後に、来嶋先生が『まるごと』の開発を通して実現したかったこと、これから実現したい！と思っていることなどあったら教えてください。

来嶋：はい。開発を通して実現したかったことは、教室という具体的な日本語教育の場を「相互理解」という大きな理念に届かせる、ということですね。教室の中で、この大きな大切な理念に届く日本語教育が行えるような教科書を作ること、が、実現したかったことです。

今は教室だけじゃなく、いろんな形で授業が成り立つようになっていますが、クラスメイトや先生と一緒に学ぶことが、学習者自身と世の中にとって、本当に価値のあることになったらいなと思っています。そしてそのために『まるごと』が役に立つなら、これほど嬉しいことはないですね。

あつそれから、『まるごと』には心優しいキャラ、親切な人がたくさん出てきます。それは人に寄り添う態度や、そういうときの日本語でのコミュニケーション方法を学習者に知ってもらいたいからです。日本語学習を通して、人に寄り添うコミュニケーションを体験してほしいですね。それがいい人間関係を作るため

に役に立つだろうし、大きく言えば、世界の平和にも必ずつながっていくと思っと思っています。

あみみん…ことばと文化の知識、その知識を蓄えるだけじゃなくて、それをどうやって人に役立てていくか、どうやって自分らしく使いこなしていくか、それを実現するための助けになるものが、この『まるごと』に詰まっている！と、そんなふうに理解しました。

来嶋…ありがとうございます！

あみみん…この番組のテーマは、「外国語と外国文化にフォーリンラブ」なんですけど、外国語として日本語を教える「日本語教育」って、まさに異文化交流ですよ！めっちゃくちゃ面白いと思いました。

自分と違う誰か、まだ知らない相手に対して、耳を傾ける姿勢を持った人が、どんどん増えるといいですよ。日本語教育界というフィールドから世界の平和を目指している、カッコいい来嶋先生に、わたくし、フォーリンラブいたしました(笑)。今日は本当にありがとうございます！

(おまけ)

番組P…いやもう、すごいですよ。観点が180度変わった感じがしますよ、僕。

そもそも「日本語を学ぶ」って考えたことないじゃないですか。日本人

だし。海外に行っても「英語喋らなきゃ」って思っ、日本語にフォーカスしたことなかったですもん。

あみみん…それに「教える」って難しいな、と思っました。お国柄による違いもあるだろうけど、それ以前に、私たちって個人個人で違う人間だし。

番組P…教材開発でそこまで考えられてるってのが、非常に面白かったですね。

あみみん…あのね、フランスで、パーティなんかで人と話すときに、自分がある程度用意していたトピックだと話せるけど、全然用意してなかったトピックだと話せなくなっちゃうことってあるんですよ。その話に興味はあるけど言葉が出てこない、みたいな。

そんなとき、友達だと私のことを知ってるから、私何が言いたそうだったって気づいてくれて、助け舟を出してくれて、それで話が展開してくことってあるんですけど、初対面の人だとそこで話が止まっちゃうんですよ。それって、さっき来嶋先生がおっしゃっていた、相手の立場になっって考えられるかどうかってことなんじゃないかな。

番組P…うん。だから学びやすいってことなんですよ。僕もちょっとこれから、日本語でどういうふうに伝えられるのかとか、日本語で対応することを考えようと思っましたよ。

いやあ、今日はすごく勉強になりました！

三修社 presents! 「ゼッタイ Foreign Love! ～外国語と海外文化に Fall in Love～」

Tokyo Star Radio 77.5MHz 毎週金曜 20:00～20:55 (再放送：翌週水曜 18:00～)

英語とフランス語を中心とする「外国語レッスン」と「海外文化について語り合う」番組。
エリア外でも無料アプリ「リスラジ」で全国から聴取できます。



@marugotonihongo
#まるごと日記

『まるごと』関連の最新情報をはじめ、授業の工夫や学習者の反応、Youtube 動画などのポートフォリオ、先生自身の気づきや振り返りなどを共有しています。



このような教育機関で使われています
(50音順・敬称略)

京都大学 / 京都外国語大学 日本語学科 / 西南女学院大学 人文学部 英語学科 (日本語教育実習コース) / 東洋大学 国際部 国際課 / 山梨大学 国際交流センター / ECC 日本語学院 金井校 / 神田外語大学 神田外語キャリアカレッジ / 学校法人 穴吹医療福祉専門学校 / 学校法人 ニッケン学園 / グローバルランゲージ語学スクール / 国書日本語学校 / 渋谷外国語専門学校 / 日本国際文化教育学院 東京校 / ベルリッツジャパン / リンゲージ日本語学校 短期コース / レクシス語学学院 他多数



『まるごと』採用コメントや、内容に関するお問い合わせ
mdev@sanshusha.co.jp

お見積りなど
webmaster@sanshusha.co.jp



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22
<https://www.sanshusha.co.jp/>